

平成24年度 学校評価(後期)
伏見板橋
 未来を拓く板橋の子



特別号2

京都市立伏見板橋小学校
 校長 山下高史
 TEL 075-611-5158

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/itahashi-s/>
 E-mail: itahashi-s@edu.city.kyoto.jp

**一めざす子ども像—
 今、何をするときか分かる子**

「子どもの振り返り」結果より

目標をもち、よく考え意欲的に学習する子
 (確かな学力)
 出会う人・もの・時を大切にする子
 (豊かな心)
 自ら判断し、ねばり強くやりぬく子
 (強い心と体)

後期学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。保護者の皆様からいただきましたご回答の中には本校の取組を肯定的に受止めくださっているもの、激励のもの、ご指摘のもの等様々な側面からのご意見や評価をいただきました。学校内部からはなかなか見えにくいくこと、気づけなかったところ等知ることができました。

教職員の「自己評価」結果と「子どもの振り返り」と合わせて、継続・発展すべきところ、改善すべきところを明らかにして、今後の教育活動に生かしていくよう取組を進めてまいります。また、保護者の皆様と評価結果を共有し連携していけたらと思います。

子どもの振り返り結果から

1 学校生活は楽しい

- ・ほとんどの児童が楽しいと答えていますが、数%の児童は、「学校生活は楽しくない」と答えています。楽しくない要因を取り除き、すべての児童が顔を輝かせて登校できる学校にしたいものです。

2 自分から進んであいさつができる

- ・児童の意識と大人の認識の差が大きいものの一つに「自ら進んであいさつ」があります。挨拶は学校内外を問わず、日常生活の中で心を通わす大切なものです。朝のスタート集団登校から、気持ちのよい挨拶で始まってほしいと思います。

7 自分から進んで本を読んでいる

- ・保護者の方も子どもも「読書」の項目で高学年になるほど減る傾向が見られます。高学年になるほど塾や習い事へ通う子どもが増え、学校以外の場所での読書の時間がとりにくくと考えられます。どれだけの本を読んでいるかという冊数だけでなく、内容や時間、読書に対する姿勢など、いろいろな観点から、取り組み方を工夫する必要があると考えます。

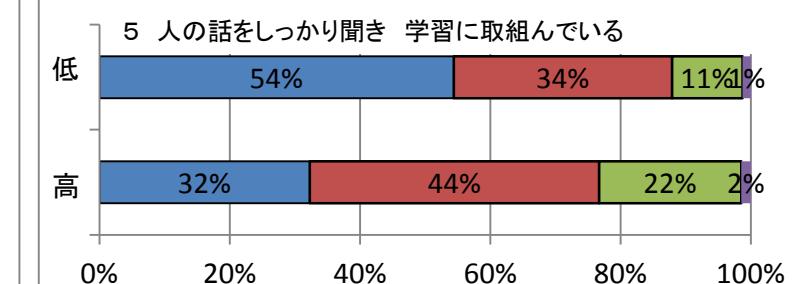
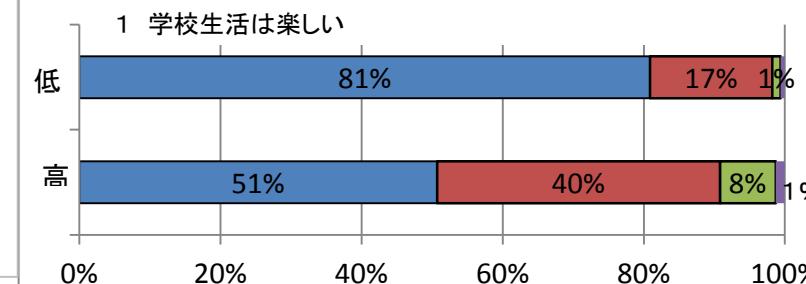
8 家で予習・復習などの勉強を毎日している

- ・かなり定着してきているのは、各学級の取組や家庭での支えが大きな原動力になっていると思います。しかし、学習の内容や、自学自習に向けて工夫されているかという点については、これからも指導していかなければならぬ課題です。

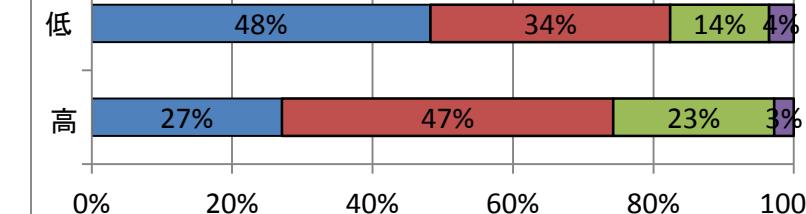
子どもの振り返り

低 1・2・3年
 高 4・5・6年

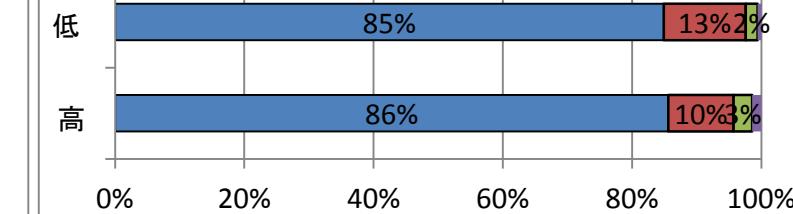
よくできている
 大体できている
 あまりできていない
 できていない



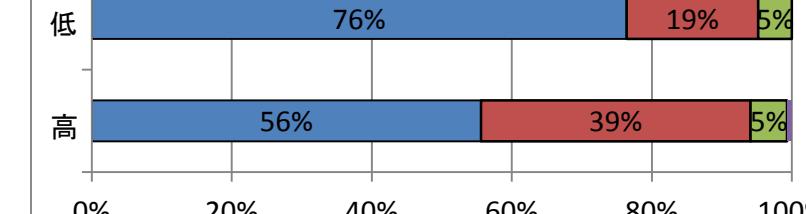
- 2 自分から進んで あいさつができる



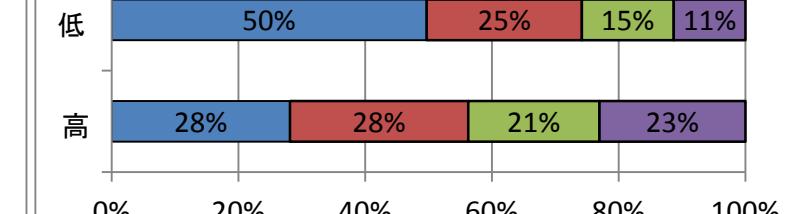
6 朝ごはん(パン)を毎日食べている



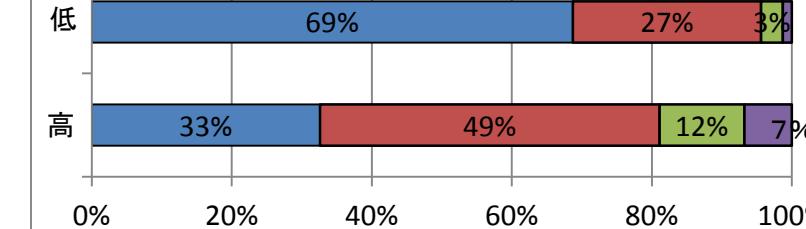
- 3 友だちを大切にし 仲良くできている



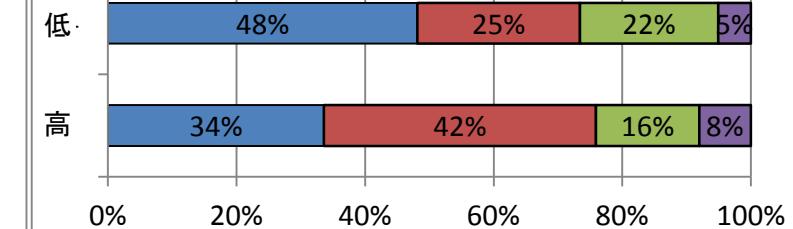
7 自分から進んで本を読んでいる



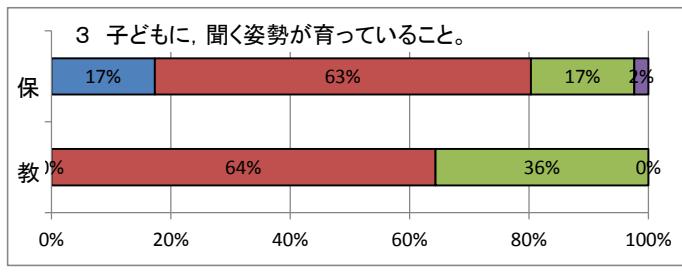
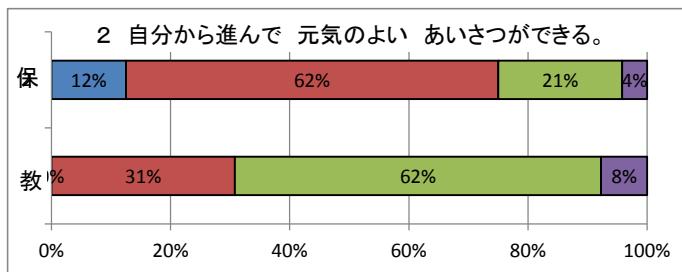
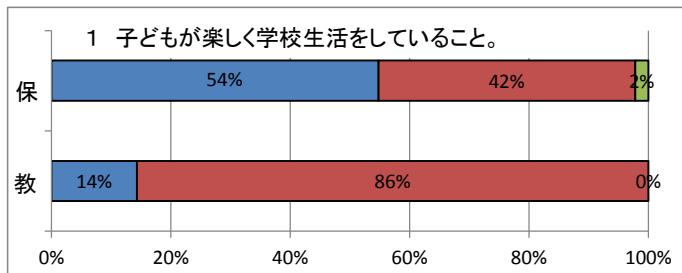
4 授業は楽しい



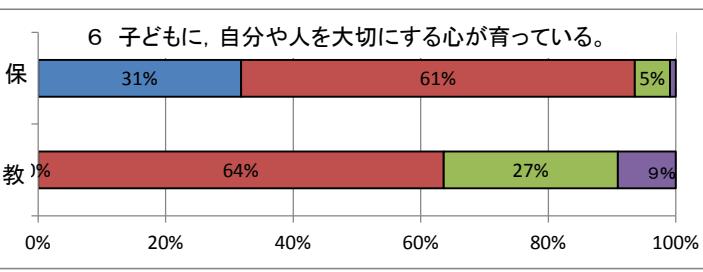
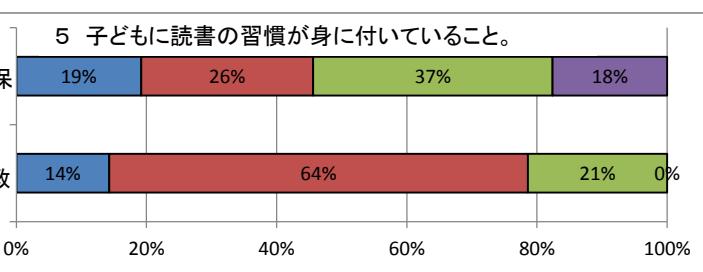
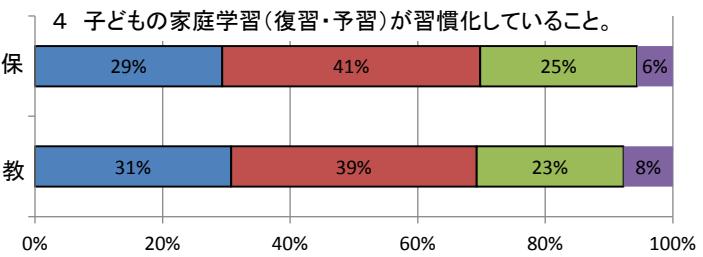
8 家で 復習・予習などの勉強を毎日している



保護者・教職員による評価から



よくできている 大体できている あまりできていない できていない



保護者の皆様のご意見

- 板橋校区は、見守る会やPTAの保護者の方に恵まれとても良い環境だと思いつつも感謝しています。
- 今年地域委員をして感じたことは、自分の子どもも含め、基本的な挨拶が出来る子が少ないと思いました。はずかしがらぎに「おはよう。」「ありがとう。」が言えるといいなと思いました。
- 子どもの「基本的な生活態度」や「思いやる心」「習慣」などは、家庭内での親のやるべき事で、学校にまかせていいものではないと思っています。学校がやるべきこと、家族でやるべきこと、両方で子どもを育てていくものだと思います。
- 先日の社会見学で農園に行き、農家の方のお話を聞けたことは子どもにとって良い体験となりました。久御山の直営店に家族で通りかかった時も話題になりました。おみやげの大根の葉っぱもいつもより増しておいしくいただきました。学校でこんな体験をさせてもらえるのはありがたいと思いました。

保護者・教職員の結果から

2 自分から進んで 元気のよい あいさつができる。

前期同様、「自ら進んであいさつができる」「場に応じたあいさつ」の項目は、保護者の皆様の評価は75%ほどが「よくできている・大体できている」とされています。しかし、教職員の評価は他の項目に比べて「あまりできていない・できていない」と答える意見が大変多いです。挨拶がしっかりできる子どもに育てるには、ただ「挨拶をしましょう。」と声をかけるだけでは効果が薄いのではないかと考えられます。子どもたちにできない理由を尋ねると、「はずかしい」「朝はしんどい」といった理由をいいます。しかし、このような理由で済ませるわけにはいきません。児童会の『あいさつ運動』に加え、大人が模範となるよう積極的に挨拶をしていきましょう。

4 家庭学習(復習・予習)が習慣化していること。

家庭学習については、保護者の皆様と教職員の評価はほぼ同じで、70%以上ができていると答えています。しかし、その内容やまた自学自習に向けて工夫されているかという点については、これからも考えていかなければならぬと思います。また、「あまりできていない・できていない」という評価が約30%もあることが大変気になります。家庭との連絡を密にとり、習慣化を図っていきたいと思います。

5 子どもは進んで読書している

保護者の皆様と教職員の評価との差が大きなものになっています。学校では朝の読書の時間はじめ、学校生活の中で本に親しむ場面が多くあります。家庭においては高学年では、学校での授業を終えたあとに塾や習い事に通ったりする子どもも多くあり、じっくり読書に向かう時間がとれない状況にあるようです。前期にも書きましたが、毎日読書に取り組むことは大事なことではありますが、家庭での読書が習慣化するよう比較的時間のある土・日曜日を利用して読書に取り組むように声かけをしたり、親子で本を読む時間をもっていただくなど、少しでも子どもたちに本の面白さ、楽しさをわからせいく必要があります。